

経営比較分析表（令和2年度決算）

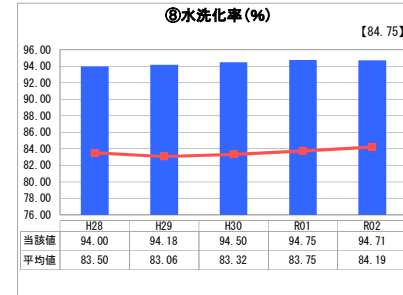
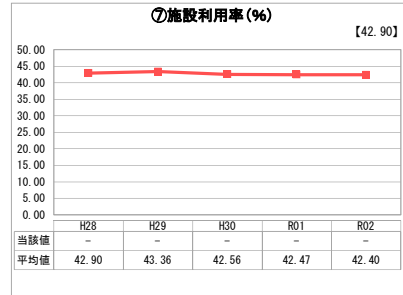
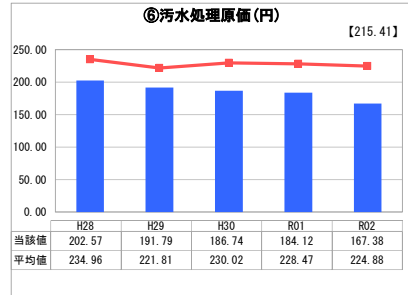
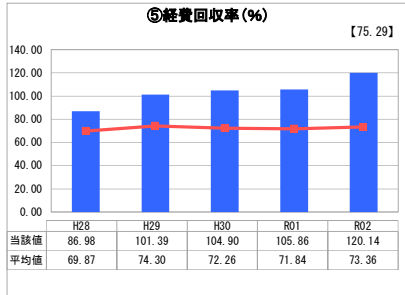
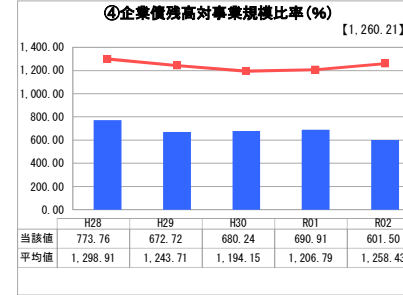
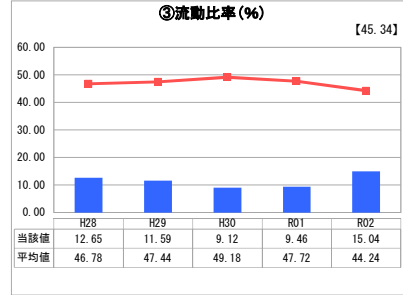
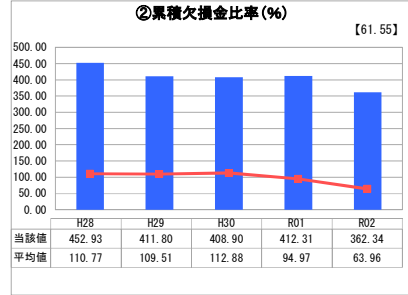
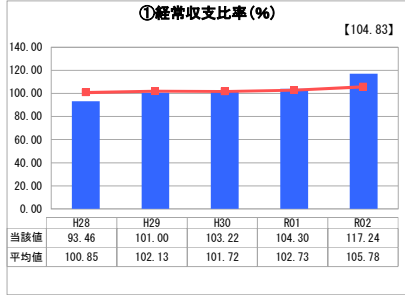
兵庫県 小野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	52.42	52.02	91.07	2,732

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
48,146	92.94	518.03
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
24,950	11.04	2,259.96

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
使用料改定により収支は改善され、全国平均、類似団体平均とも上回った。今後も経費の削減に努め、健全経営を続けていく。

②累積欠損金比率
使用料改定を行ったものの、依然累積欠損金は多く、全国平均、類似団体平均とも上回っている。今後も経営改善を図り累積欠損金の削減に努める。

③流動比率
全国平均、類似団体平均とも大きく下回っている。経常収支が黒字化したものの、依然適正な数値とはいえず、経費の削減に努め、健全経営を続けていく。

④企業債残高対事業規模比率
今後4年程度、企業債償還のピークを迎えることから、将来的には当該数値の改善が見込まれるが、今後も投資について必要性を十分に検討した上で計画的に実施していく。

⑤経費回収率
H28年度に使用料改定を行ったことで、当該数値が改善され、連増傾向にある。今後も経費の削減に努めつつ、使用料の見直しについては随時検討を行っていく。

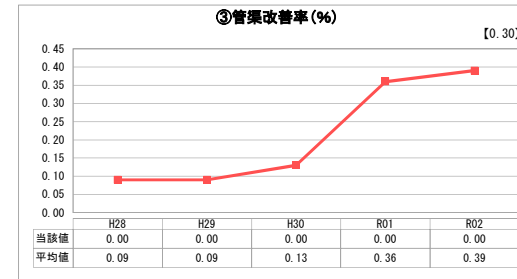
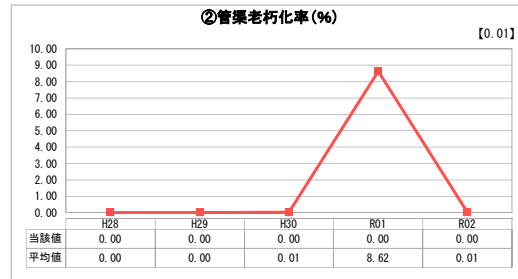
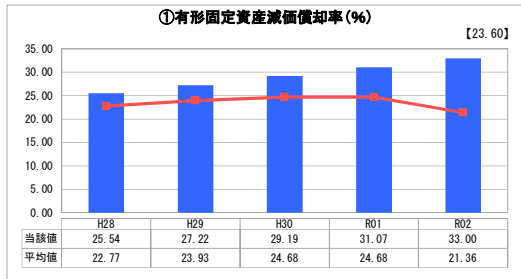
⑥汚水処理原価
R2年度は有収水量が増加したことで、当該数値が減少した。全国平均、類似団体平均とも下回っているものの、施設の老朽化等により今後増加が見込まれるため、一層の維持経費削減に努める必要がある。

⑦施設利用率
区域内すべてにおいて流域下水道に接続しているため、当該数値は0となっている。

2. 老朽化の状況について

全国平均、類似団体平均とも上回っており、老朽化が進んでいる状態である。R3年度から数年にかけて積極投資を計画しており、施設の更新を行うことから、当該数値の改善が見込まれる。今後も標準化を念頭に計画的な投資を行っていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

H28年度の使用料改定により、経常収支比率、累積欠損金比率などの数値は改善傾向にあるものの、依然厳しい状況である。ただし、数年後において、企業債償還のピークを終えることから、改善の兆しが見込まれることから、引き続き経費の削減に努め、健全経営を続けていく。

資産についても施設の老朽化率が上昇傾向にあるため、長寿命化を含めた各種の投資については、費用対効果等を含めて総合的に判断しながら計画的に進めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。